

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

マーク式 64 記述式 11 論述式 3

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

マーク式は2つ増加したが、記述式が2つ減少、論述式は同数のため、分量に変化なし。全体的には基本的内容が中心であるものの、やや細かい知識を問う問題が昨年度より多くみられたことから、難易度はやや難化した。

出題の特徴や昨年との変更点

例年の通り、長文の空欄補充を中心としたマーク式にくわえ、記述式、論述式が併用して出題された。問題数が多いので、語群にある多くの用語が50音順に並べられていることをふまえ、想定される解答を素早くみつける必要がある。また、求められる解答がわからなくても、語群の中から候補となる用語を絞り、消去法で選べることもあるので、粘り強く対応したい。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式 記述式 論述式	農業	問1の(29)(30)に入る12-WFP(国連世界食糧計画)は、緊急時に食料支援などを行う。迷ったと思われる11-FAO(国連食糧農業機関)は、人々の栄養水準の改善をめざし、また長期的な農業開発の支援を実施する。	やや易
II	マーク式 記述式 論述式	輸出品目構成から みた世界の国の ランキング	ある指標に基づく世界の国のランキングに関する長文を用いた問いで、このランキングは知らなくても解答には問題がない。問1の(55)(56)は、12-AFTA(アセアン自由貿易地域)ではなく、文中に2015年発足とあることから11-AEC(アセアン経済共同体)が該当する。問4の論述は、西ヨーロッパから東ヨーロッパへ、生産拠点を移す動きがあることなどを述べよう。	標準
III	マーク式 記述式 論述式	アメリカ合衆国の 地誌	問1は、定番の州にくわえ、やや細かな知識となる馴染みの薄い州や横断鉄道の名称、支流名なども問われたことから、やや難しかった。問6の論述は、アメリカの貿易赤字について述べればよい。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 資源や産業、企業活動の国際化や先端産業の動向、そして、国家・民族、紛争は頻出の分野である。
2. 地誌は、自然、産業、文化、近現代史まで幅広く問われる。地図を用いた出題は近年みられないが、地図をもとに述べられた長文や、地理的位置から判断させる出題もみられるので、常に地図帳を用いた学習が必要である。
3. 論述は、教科書の内容を短い字数で述べるものが多いことから、教科書の太字の語句を30字前後で説明し、用語集などで確認するようにしよう。例年、標準的な内容が出題されているので、敬遠することなく必ず解答するようにしよう。
4. 論述問題も含め教科書の内容に沿った基本的内容の出題が多いことから、脚注や図の説明も含めて、教科書を徹底して読み込み、用語の定義や事項の説明などを整理しておこう。
5. 過去問を通して、本学独自の長文の空欄補充形式に慣れよう。解いた後に、空欄に適切な語句を入れて完成させた文章は、学習のまとめとして利用することができる。